



福井市長3期目初登庁(2月15日)

主な内容

- 特集1** 住みたい、住み続けたい「高島」の実現へ
福井市政3期目 始動。…………… ②
- 特集2** 誰一人取り残さない 地域共生社会の実現に向けて…………… ④
- ・市役所窓口を休日開庁します…………… ⑥
- ・妊娠、出産、子育てを安心して過ごすために…………… ⑱

※撮影時だけ、マスクを外しています

無料アプリ「マチイロ」で広報たかしまが読めます！

「広報たかしま」はスマートフォンアプリ「マチイロ」でも配信しています。
スマートフォン等から当アプリをダウンロードしてお使いください。

※アプリのダウンロードは無料ですが、
通信費は利用者のご負担になります。

マチイロ

検索

高島市公式

フェイスブック
Facebook

インスタグラム
Instagram

で情報発信中！

こちらの名前でそれぞれ検索してご登録をお願いします。

・Facebook「あっと高島」 ・Instagram「takashima city #たかP写真館」



イメージキャラクター
「たかP」

住みたい、住み続けたい「高島」の実現へ

福井市政

STAGE III

3期目

始動。

特集1

1月31日(日)に執行された高島市長選挙で再選された福井正明市長が、2月15日(月)に3期目の初登庁をされました。高島市政初となる3期目の市長として、感想やこれからの抱負などについて聞きました。

秘書課 ☎(25) 8415



どのような3期目にしていきたいか、抱負をお聞かせください

私にとりまして、これまでの2期8年はいろいろな課題に対応する一方で、政策の実現に向けた取り組みもしてきました。

今回の選挙によって、3期目の付託を受けたわけでありますけれども、さらなる市政の発展に全身全霊で取り組むのはもちろんですが、今から4年後に、あの時にやっぱり福井を支持してよかったと思っていただけのような4年間になりたいと考えています。

数多くの課題がありますが、早急に取り組まなければならないことは

まず、コロナワクチンの接種をどのようにやっていくのかという方針を早急に示さなければならぬということ。ワクチン開発とその接種体制については、国の方針がまだ少し今の段階で見極められないなかで体制を整えていかなければならない。いろいろな想定をしながら、スムーズな接種ができるように考えなければならぬというのが喫緊の課題です。

この4年間で特に重点的に取り組む施策を教えてください

これまでの2期8年にわたりまして、国県との連携を図りながら国道161号などの基盤整備を進めてきて、ようやく完成の目途がたってきました。あと3年から4年くらいで大きく改善するという状況でありまして、あるいは会員制のリゾートホテルもようやく再スタートを決定いただき、それもこの任期中に開業いただけるように働きかけていきたいと思っております。極めて重要な3期目の4年間となりますので、しっかりと対応



高島市長選挙
当選証書付与式



3期目初登庁
花束を受け取る市長

させていただきたい。

そして、市政を担っている者は、長い歴史の中では歯車の一つに過ぎないと私は思っています。お預かりしている任期の中で、いかに市政を発展させ、次にバトンを次を継ぐか、そのつなぎ役がそれぞれ自治体の首長たるものの役割だろーと思えます。そういう意味では、この4年間というのは、高島の将来を方向付ける非常に大切な4年間になるのではなからうかと思えます。

地域の活性化を生かしたまちづくりをどのように進めていくのでしょうか

市全体の活性化を考えた場合に、近江今津駅というのは、福井嶺南地域や京阪神とつながる交通の要衝に位置付けることができずので、そういう意味で何とかこの地域の活性化を進めていきたいと考えています。

特に、北陸新幹線敦賀駅開業が今の段階では1年ほど延びて2024年と言われていますし、その先の小浜ルートはおそらく相当期間を要するだろうと考えてられます。



JR西日本としてもまだ

ルートを正式に発表はされておられませんけれども、例えば湖西線に閑空特急はるか走らせていただき、かつ近江今津駅で停車をさせていただきたいという要望をかねてからしておりますので、そうしたことと併せて近江今津駅周辺の活性化策についても検討をしていきたいと思えます。

新たなごみ処理施設をどのように進めていけるのでしょうか

新たな候補地を再公募させていただきたいということを選挙期間中に市民の皆さんに訴えさせていただきました。

今後については、改めて市議会と協議をさせていただいたうえで、スケジュールも含めて検討させていただきますと思っています。

市民の皆さんにメッセージをお願いします

今回の選挙ではコロナ禍への対応が市民の皆さんにとって非常に心が高かったと思えます。おそろくその背景には、長期にわたって自粛生活を余儀なくされ、依然として多くの感染者が確認されているという先の見通せない状況から、一日も早く穏やかな日常を取り戻したいという、切実な気持ちの表れだと思えます。そうした思いをしっかりと受け止めていただき、早期に市民の皆さんにワクチンが行きわたり、再び、笑顔の行きかう日々が迎えられるように、何としてもこの難局を市民の皆さんとともに乗り越えていきたいと思っています。



誰一人取り残さない 地域共生社会の実現に向けて

☎ 社会福祉課 暮らし連携支援室 ☎ (25) 8120

近年、いくつもの生活の困りごとが重なったり、今ある制度では解決が難しくなったりするなど「縦割り」で整備された制度では対応が難しいケースが増えています。一方で、地域では、住民福祉協議会や有志の方を中心にサロンやカフェ、誰でも利用できる地域食堂など、みんなの居場所づくりが進められています。

こうしたなか、すべての住民が、地域、暮らし、生きがいとともに創り、高めあうことができる地域共生社会※の実現が求められています。

※地域共生社会とは、平成28年に閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」の中で初めて示された理念で、次のように定められています。

▼制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながること、住民一人一人の暮らしと生きがい、地域とともに創っていく社会

相談支援体制の強化

市役所などの相談窓口では、さまざまな暮らしの困りごとをお聞きしています。

まずは、それぞれの困りごとに寄り添い、受け止めるとともに、管轄外の相談を受けた時にも適切な相談先につなげるよう連携体制を強化します。

○地域生活つむぎあい会議

福祉分野をはじめ、医療、教育、まちづくり、商工など、分野を超えて委員が参画し、地域共生社会の理念や地域課題の解決に向けた取り組みを検討しています。

○庁内連携の促進

市役所内の30部局で構成する庁内連携会議を設置し庁内連携の促進を図っています。

また、本年度は窓口で相談をお受けする職員が話し合いを重ねて、困りごとや悩みをもれなく受け止め、関係部署へ適切かつ確実につなぐための連携ツール「つむぎあいシート」を作成し、試験的運用を始めました。

参加の支援体制の強化

ひきこもりの方や孤立されている方には、社会参加に向けた支援が必要です。そこで、訪問支援員の配置や居場所づくりなど、参加を支援する仕組みを強化します。

○社会福祉法人の社会貢献による居場所「虹カフェ」

働きづらさを抱える方への社会参加支援に取り組む社会福祉法人虹の会が「みんなの居場所 虹カフェ」を開いています。誰もが参加できる社会的居場所づくりをすすめること、潜在的な困りごとへのアプローチ方法も検討しています。



地域づくりに向けた支援の強化

地域福祉を推進する社会福祉協議会を中心に、市内のさまざまな団体などと連携して地域づくりに向けた支援体制を強化します。

○地域別くらし連携会議

中学校圏域ごとに、保健師、支所職員、社協コミュニティワーカーを中心に「住民の身近な生活圏域における専門職連携の場」を設置し、顔の見える関係づくりを進めています。

○朽木地域での取り組み

高齢世帯等への見守り活動の一つとして、保健師と社協コミュニティワーカーによる地域訪問を実施しています。また、医療機関や介護事業所、市職員等でチームを作り、出張相談型「くつき暮らしなんでも相談会」を実施しました。



みんなで一緒に

地域で暮らし一人一人の抱える課題が複雑化、多様化する中で、一つの機関だけでは解決することはできません。

一人一人の暮らしを支える「セーフティネット」の基礎となるのは、人と人のつながりそのものです。

コロナ禍でこれまでと同じやり方が難しくなっています。地域での出会いや学びの場の実践に、引き続き皆さんのお力をお貸しください。

市では、これからも関係機関、団体や地域と連携した地域共生社会の実現に向けた取り組みを進めていきます。

